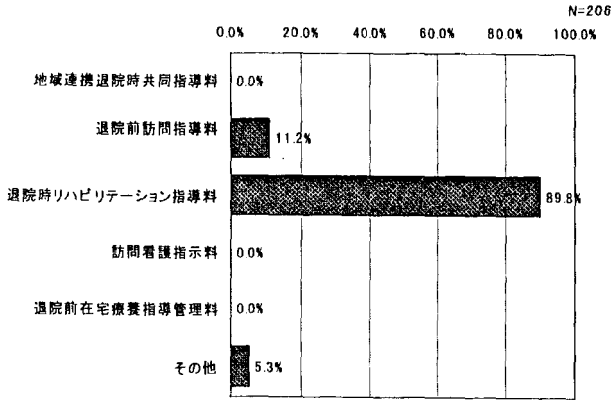
(6)　その他の算定項目（複数回答）

「運動器リハビリテーション料」以外に算定した項目については 1,167 名のうち 206 名が算定しており、内訳は次のとおりとなっている。

図表 6.6-11　その他の算定項目

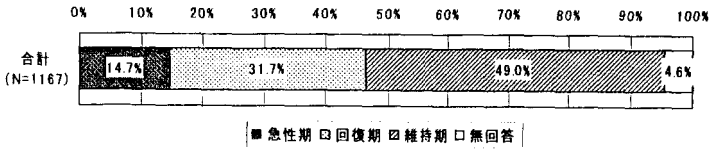


(7)　調査時点の患者の状態

1)　リハビリテーションの段階

リハビリテーションの段階については、「維持期」(49.0%) が最も多く、次いで、「回復期」(31.7%)、「急性期」(14.7%) となっている。

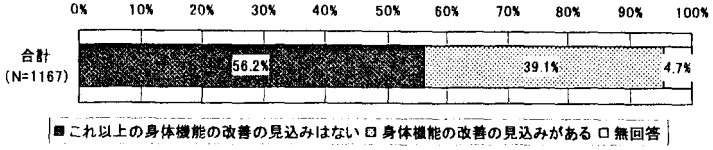
図表 6.6-12　リハビリテーションの段階



2)　状態の評価

状態の評価については、「これ以上の身体機能の改善の見込みはない」が 56.2%、「身体機能の改善の見込みがある」が 39.1%となっている。

図表 6.6-13　状態の評価

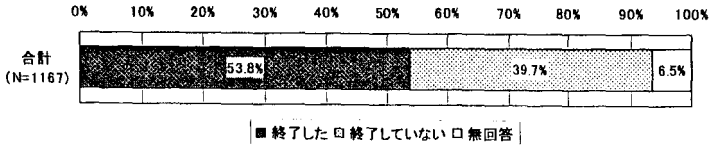


(8)　医療保険によるリハビリテーション後の対応

1)　医療保険によるリハビリテーション終了の有無

医療保険によるリハビリテーション終了の有無については、「終了した」が 53.8%、「終了していない」が 39.7%となっている。

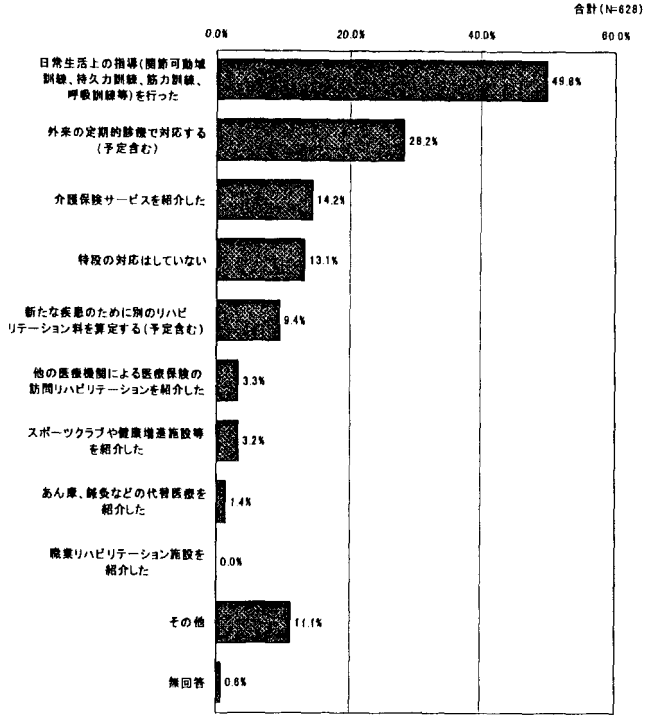
図表 6.6-14　医療保険によるリハビリテーション終了の有無



2)　リハビリテーション終了後の対応（複数回答）

リハビリテーション終了後の対応については、「日常生活上の指導（関節可動域訓練、持久力訓練、筋力訓練、呼吸訓練等）を行った」(49.8%) が最も多く、次いで、「外来の定期的診療で対応する（予定含む）」(28.2%) となっている。

図表 6.6-15　医療保険によるリハビリテーション終了後の対応



(9) 代表的な疾患と算定日数の関係

代表的な疾患と算定日数の関係、及びその患者の内訳は次のとおりである。

算定日数上限前にリハビリテーション料の算定を終了した患者のうち、「身体機能の改善の見込みがある」とされた患者の割合が高い。これは、調査に回答した医療機関でのリハビリテーションが終了した患者が対象であり、実際にはその後、他の医療機関にてリハビリテーションを実施しているものと推察される。

表 6.6-1 代表的な疾患と算定日数の関係(算定日数上限前に終了)

	上限前（１３５日まで）					
	これ以上改善の見込はない				身体機能の改善の見込みがある	無回答
	生活の場で状態維持が可能	状態維持のためにリハの継続が必要				
		介護保険対象	介護保険対象外	無回答		
合計(N=287)	101	45	6	0	116	19
	35.2%	15.7%	2.1%	0.0%	40.4%	6.6%
上・下肢の複合損傷（骨、筋・腱・靭帯、神経、血管のうち3種類以上の複合損傷）(N=154)	58	16	4	0	67	9
	37.7%	10.4%	2.6%	0.0%	43.5%	5.8%
関節の変性疾患(N=65)	17	13	1	0	27	7
	26.2%	20.0%	1.5%	0.0%	41.5%	10.8%
関節の炎症性疾患(N=20)	10	1	1	0	8	0
	50.0%	5.0%	5.0%	0.0%	40.0%	0.0%
運動器不安定症等(N=21)	4	11	0	0	5	1
	19.1%	52.4%	0.0%	0.0%	23.8%	4.8%
その他(N=27)	12	4	0	0	9	2
	44.4%	14.8%	0.0%	0.0%	33.3%	7.4%

表 6.6-2 代表的な疾患と算定日数の関係(算定日数上限をもって終了)

	上限（１３６～１５０日）をもって終了					
	これ以上改善の見込はない				身体機能の改善の見込みがある	無回答
	生活の場で状態維持が可能	状態維持のためにリハの継続が必要				
		介護保険対象	介護保険対象外	無回答		
合計(N=186)	62	51	12	0	55	6
	11.0%	9.0%	2.1%	0.0%	9.8%	1.1%
上・下肢の複合損傷（骨、筋・腱・靭帯、神経、血管のうち3種類以上の複合損傷）(N=62)	11.7%	4.9%	0.8%	0.0%	6.9%	0.8%
関節の変性疾患(N=71)	17	29	1	0	23	1
	9.7%	16.6%	0.6%	0.0%	13.1%	0.6%
関節の炎症性疾患(N=27)	9	5	3	0	9	1
	15.0%	8.3%	5.0%	0.0%	15.0%	1.7%
運動器不安定症等(N=15)	3	4	4	0	4	0
	7.5%	10.0%	10.0%	0.0%	10.0%	0.0%
その他(N=11)	4	1	2	0	2	2
	9.5%	2.4%	4.8%	0.0%	4.8%	4.8%

表 6.6-3 代表的な疾患と算定日数の関係(算定日数上限後に終了)

	上限後（１５１日以降）					
	これ以上改善の見込はない				身体機能の改善の見込みがある	無回答
	生活の場で状態維持が可能	状態維持のためにリハの継続が必要				
		介護保険対象	介護保険対象外	無回答		
合計(N=50)	20	10	3	1	12	4
	40.0%	20.0%	6.0%	2.0%	24.0%	8.0%
上・下肢の複合損傷（骨、筋・腱・靭帯、神経、血管のうち3種類以上の複合損傷）(N=19)	7	6	2	0	3	1
	36.8%	31.6%	10.5%	0.0%	15.8%	5.3%
関節の変性疾患(N=19)	9	2	0	1	6	1
	47.4%	10.5%	0.0%	5.3%	31.6%	5.3%
関節の炎症性疾患(N=5)	1	1	1	0	1	1
	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%	20.0%
運動器不安定症等(N=3)	2	0	0	0	0	1
	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
その他(N=4)	1	1	0	0	2	0
	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%

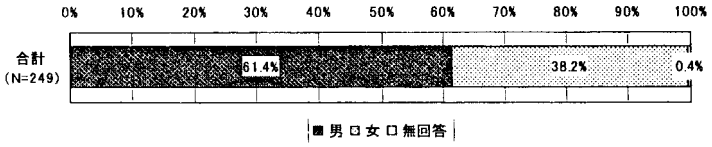
6.7 患者の状況(1)【施設向け患者調査票（呼吸器リハビリテーション）】

(1) 基本情報

1) 患者の性別

患者の性別についてみると、「男性」が 61.4%、「女性」が 38.2%となっている。

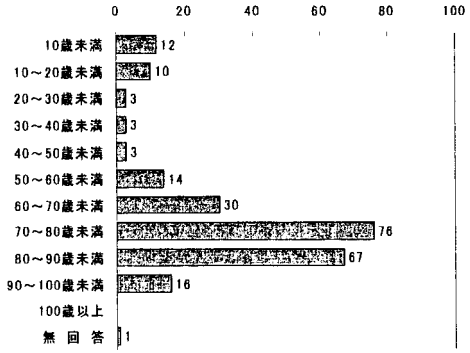
図表 6.7-1 患者の性別



2) 患者の年齢（平成 18 年 12 月 1 日時点）

患者の年齢についてみると、「70～80 歳未満」が 76 名で最も多く、次いで「80～90 歳未満」が 67 名となっている。

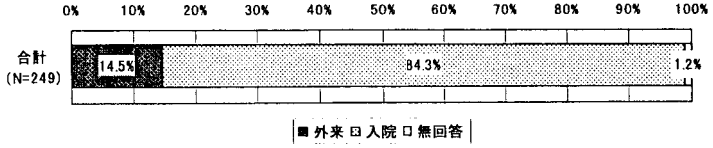
図表 6.7-2 患者の年齢（N=235） （人）



3) 診療区分

診療区分についてみると、「入院」が 84.3%、「外来」が 14.5%となっている。

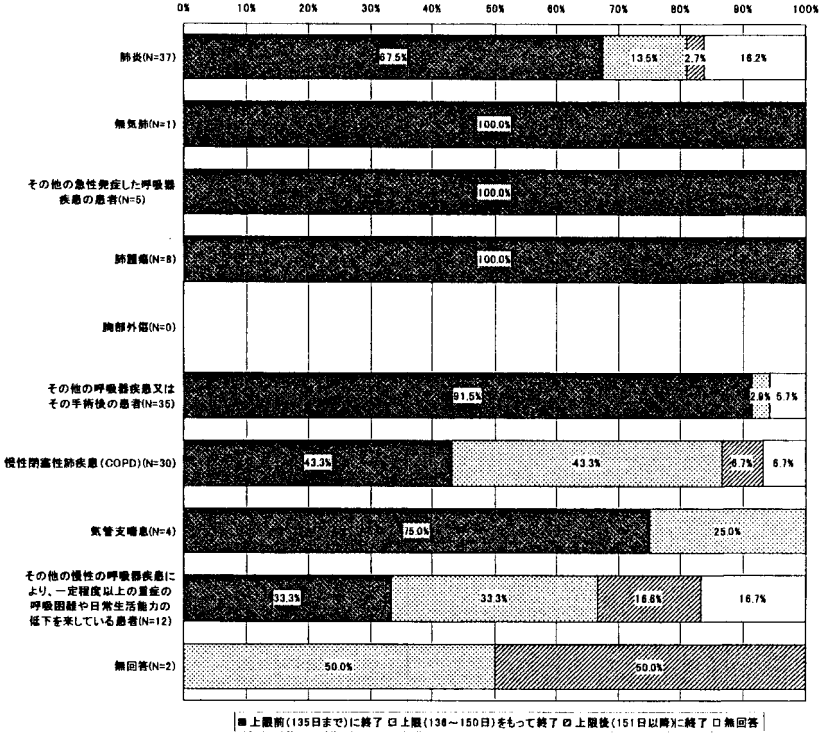
図表 6.7-3 診療区分



(2) 算定対象疾患と算定期間

平成 18 年 4 月以降に調査対象医療機関でのリハビリテーションを開始した患者における算定対象疾患は、「肺炎」(37 件)が最も多く、次いで「慢性閉塞性肺疾患（COPD)」(30 件)となっている。10 件以上のケースのある算定対象疾患について、算定日数の上限をもって終了した患者の割合をみると、「慢性閉塞性肺疾患（COPD)」(43.3%)が最も多く、次いで「その他の慢性の呼吸器疾患により、一定程度以上の重症の呼吸困難や日常生活能力の低下を来している患者」(33.3%)となっている。

図表 6.7-4 算定対象疾患と算定期間

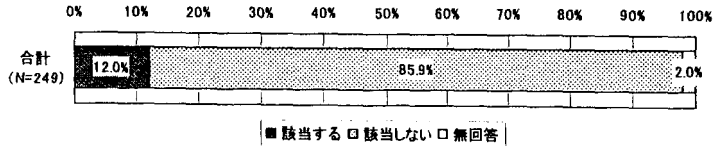


(3)　除外疾患

1)　除外疾患の有無

除外疾患の有無についてみると、12.0%が「該当する」としている。

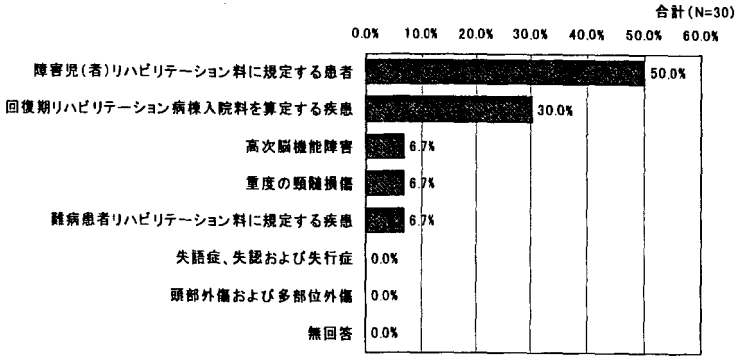
図表 6.7-5　除外疾患の有無



2)　除外疾患に該当する場合、その適用項目

除外疾患に該当する場合、その適用項目についてみると、「障害児(者)リハビリテーション料に規定する患者」(50.0%)が最も多く、次いで「回復期リハビリテーション病棟入院料を算定する疾患」(30.0%)となっている。

図表 6.7-6　除外疾患に該当する場合の適用項目

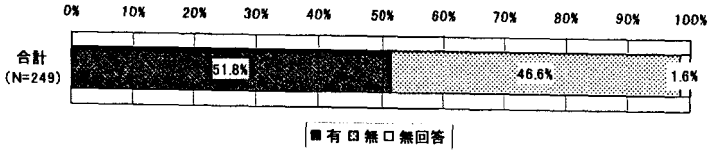


(4)　算定対象疾患以外の疾患・障害

1)　算定対象疾患以外の疾患・障害の有無

算定対象疾患以外の疾患・障害の有無についてみると、51.8%が「有」としている。

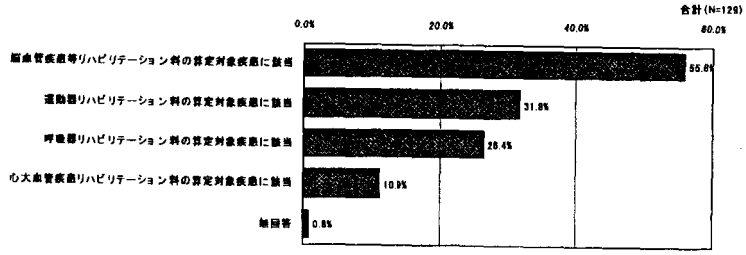
図表 6.7-7　算定対象疾患以外の疾患・障害の有無



2)　該当する場合、その疾患・障害（複数回答）

算定対象疾患以外の疾患・障害を有する場合、その疾患・障害についてみると、「脳血管疾患等リハビリテーション料の算定対象疾患に該当」(55.8%)が最も多く、次いで「運動器リハビリテーション料の算定対象疾患に該当」(31.8%)となっている。

図表 6.7-8　算定対象疾患以外の疾患・障害を有する場合の疾患・障害

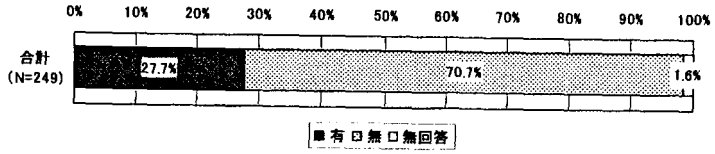


(5)　過去に算定していたリハビリテーション料

1)　過去に算定していたリハビリテーション料の有無

過去に算定していたリハビリテーション料については、27.7%が「有」としている。

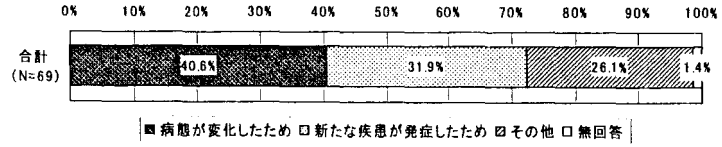
図表 6.7-9　過去に算定していたリハビリテーション料の有無



2)　現在のリハビリテーション料に切り替えた理由

現在のリハビリテーション料に切り替えた理由については、「病態が変化したため」(40.6%) が最も多く、次いで、「新たな疾患が発症したため」(31.9%) となっている。

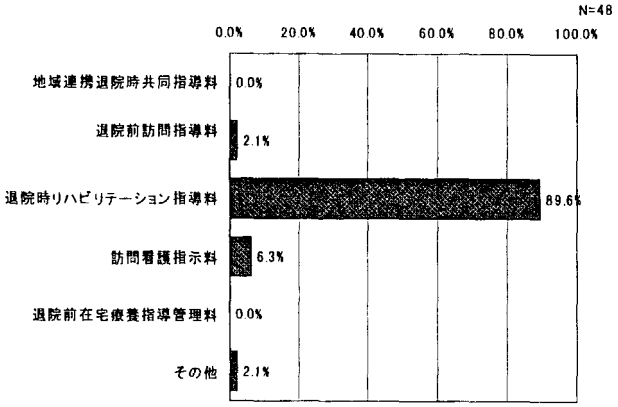
図表 6.7-10　現在のリハビリテーション料に切り替えた理由



(6)　その他の算定項目（複数回答）

「呼吸器リハビリテーション料」以外に算定した項目については 249 名のうち 48 名が算定しており、内訳は次のとおりとなっている。

図表 6.7-11　その他の算定項目

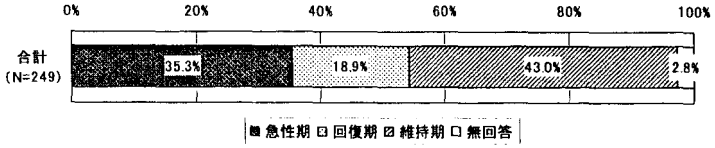


(7)　調査時点の患者の状態

1)　リハビリテーションの段階

リハビリテーションの段階については、「維持期」(43.0%) が最も多く、次いで、「急性期」(35.3%)、「回復期」(18.9%) となっている。

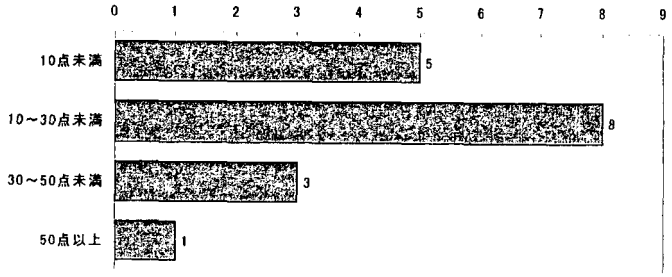
図表 6.7-12　リハビリテーションの段階



2)　患者の状態評価

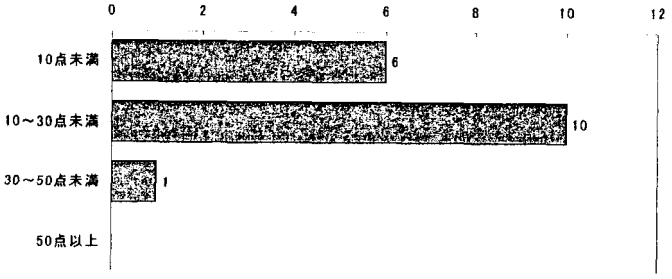
患者の状態評価において、バーセル・インデックスを用いた評価（終了時の点数と開始時の点数との差）については、「10～30 点未満」(8 名) が最も多く、次いで「10 点未満」(5 名) となっている。

図 6.7-1　患者の状態評価（バーセル・インデックス）　(人)



患者の状態評価において、FIM を用いた評価（終了時の点数と開始時の点数との差）については、「10～30 点未満」(10 名) が最も多く、次いで「10 点未満」(6 名) となっている。

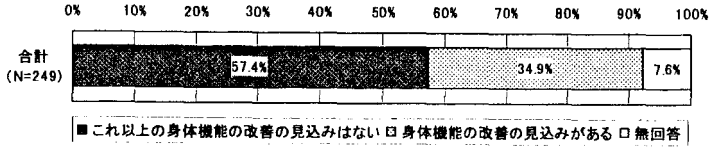
図 6.7-2　患者の状態評価（FIM）　(人)



3)　状態の評価

状態の評価については、「これ以上の身体機能の改善の見込みはない」が 57.4%、「身体機能の改善の見込みがある」が 34.9%となっている。

図表 6.7-13　状態の評価

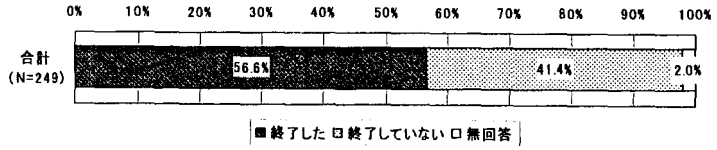


(8) 医療保険によるリハビリテーション後の対応

1) 医療保険によるリハビリテーション終了の有無

医療保険によるリハビリテーション終了の有無については、「終了した」が 56.6%、「終了していない」が 41.4%となっている。

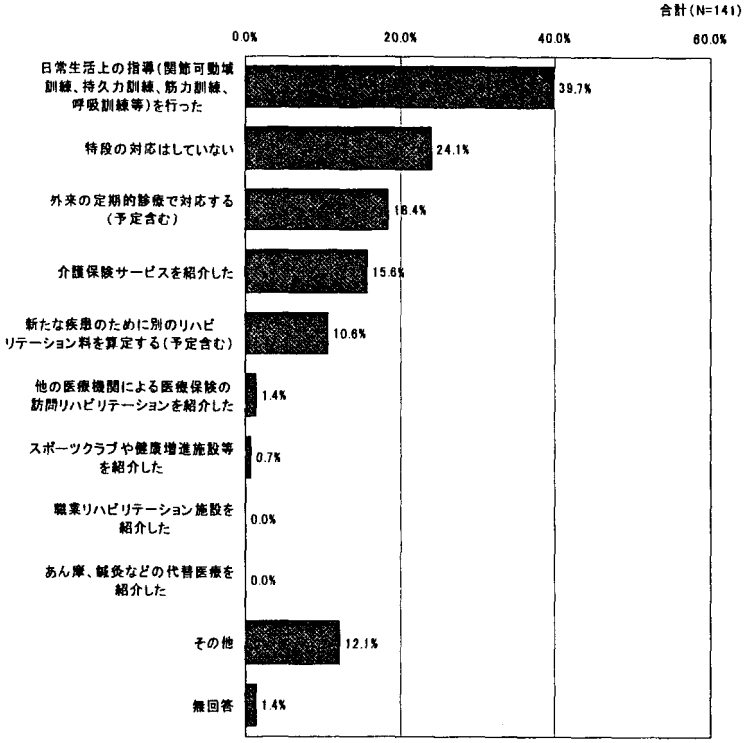
図表 6.7-14 医療保険によるリハビリテーション終了の有無



2) リハビリテーション終了後の対応（複数回答）

リハビリテーション終了後の対応については、「日常生活上の指導（関節可動域訓練、持久力訓練、筋力訓練、呼吸訓練等）を行った」（39.7%）が最も多く、次いで、「特段の対応はしていない」（24.1%）となっている。

図表 6.7-15 医療保険によるリハビリテーション終了後の対応



(9) 代表的な疾患と算定日数の関係

代表的な疾患と算定日数の関係、及びその患者の内訳は次のとおりである。

算定日数上限前にリハビリテーション料の算定を終了した患者のうち、「身体機能の改善の見込みがある」とされた患者の割合が高い。これは、調査に回答した医療機関でのリハビリテーションが終了した患者が対象であり、実際にはその後、他の医療機関にてリハビリテーションを実施しているものと推察される。

表 6.7-1 代表的な疾患と算定日数の関係(算定日数上限前に終了)

	上限前（75日まで）					
	これ以上改善の見込はない				身体機能の改善の見込みがある	無回答
	生活の場で状態の維持が可能	状態維持のためにリハの継続が必要				
		介護保険対象	介護保険対象外	無回答		
合計(N=91)	38	7	1	2	28	15
	41.8%	7.7%	1.1%	2.2%	30.8%	16.5%
肺炎(N=25)	10	6	0	1	7	1
	40.0%	24.0%	0.0%	4.0%	28.0%	4.0%
その他の呼吸器疾患又はその術後の患者	16	0	0	0	5	11
(N=32)	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.6%	34.4%
慢性閉塞性肺疾患（COPD）(N=13)	8	0	0	1	4	0
	61.5%	0.0%	0.0%	7.7%	30.8%	0.0%
その他(N=21)	4	1	1	0	12	3
	19.0%	4.8%	4.8%	0.0%	57.1%	14.3%

表 6.7-2 代表的な疾患と算定日数の関係(算定日数上限をもって終了)

	上限（76～90日）をもって終了					
	これ以上改善の見込はない				身体機能の改善の見込みがある	無回答
	生活の場で状態の維持が可能	状態維持のためにリハの継続が必要				
		介護保険対象	介護保険対象外	無回答		
合計(N=25)	4	16	0	0	4	1
	3.0%	11.9%	0.0%	0.0%	3.0%	0.7%

	上限（76～90日）をもって終了					
	これ以上改善の見込はない				身体機能の改善の見込みがある	無回答
	生活の場で状態の維持が可能	状態維持のためにリハの継続が必要				
		介護保険対象	介護保険対象外	無回答		
肺炎(N=5)	0	4	0	0	1	0
	0.0%	10.8%	0.0%	0.0%	2.7%	0.0%
その他の呼吸器疾患又はその術後の患者(N=1)	0	1	0	0	0	0
	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
慢性閉塞性肺疾患（COPD）(N=13)	2	9	0	0	1	1
	6.7%	30.0%	0.0%	0.0%	3.3%	3.3%
その他(N=6)	2	2	0	0	2	0
	6.3%	6.3%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%

表 6.7-3　代表的な疾患と算定日数の関係(算定日数上限後に終了)

	上限後（91日以降）					
	これ以上改善の見込はない				身体機能の改善の見込みがある	無回答
	生活の場で状態の維持が可能	状態維持のためにリハの継続が必要				
		介護保険対象	介護保険対象外	無回答		
合計(N=6)	1	4	0	0	0	1
	1.1%	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
肺炎(N=1)	1	0	0	0	0	0
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他の呼吸器疾患又はその術後の患者(N=0)	0	0	0	0	0	0
	-	-	-	-	-	-
慢性閉塞性肺疾患（COPD）(N=2)	0	2	0	0	0	0
	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他(N=3)	0	2	0	0	0	1
	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%

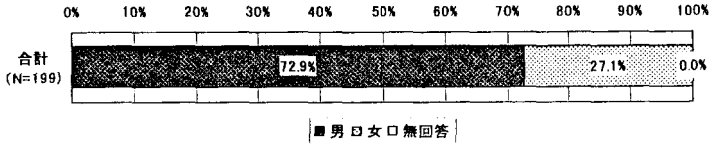
6.8　患者の状況(2)【患者調査票（心大血管疾患リハビリテーション）】

(1)　基本情報

1)　患者の性別

患者の性別についてみると、「男性」が 72.9%、「女性」が 27.1%となっている。

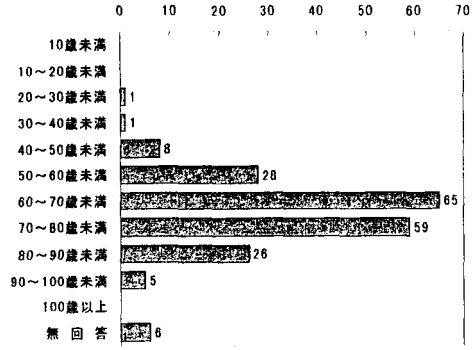
図表 6.8-1　患者の性別



2)　患者の年齢（平成 18 年 12 月 1 日時点）

患者の年齢についてみると、「60～70 歳未満」が 65 名で最も多く、次いで「70～80 歳未満」が 59 名となっている。

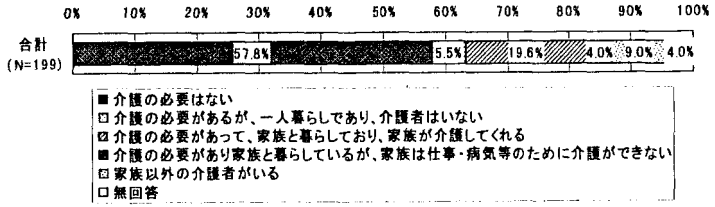
図表 6.8-2　患者の年齢（N=199）



3)　本人又は家族が判断した介護の必要性

本人又は家族が判断した介護の必要性についてみると、「介護の必要はない」（57.8%）が最も多く、次いで、「介護の必要があって、家族と暮らしており、家族が介護してくれる」（19.6%）となっている。

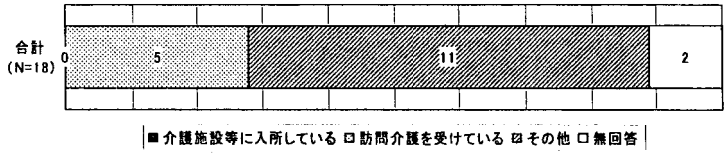
図表 6.8-3　介護の状態



4)　（家族以外の介護者がいる場合の）介護保険の利用状況

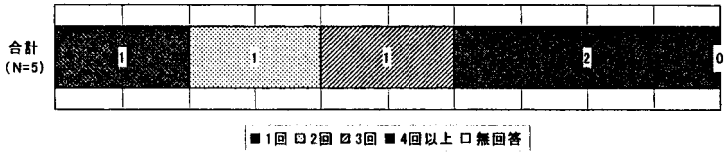
家族以外の介護者がいる場合の介護保険の利用状況についてみると、「その他」が 18 名中 11 名と最も多く、次いで「訪問介護をうけている」が 5 名となっている。

図表 6.8-4　介護保険の利用状況



訪問介護の回数についてみると、「4 回以上」が 5 名中 2 名、その他は 1 名ずつとなっている。

図表 6.8-5　訪問介護の回数

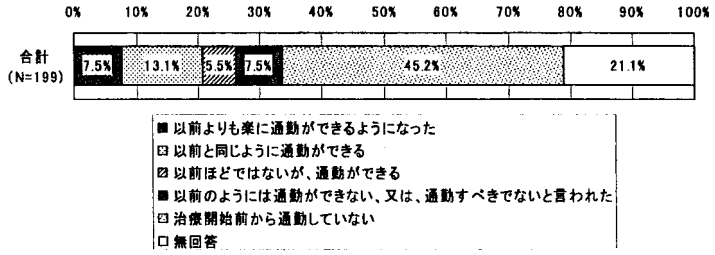


(2)　リハビリテーションを始めたときの生活と現在の状況との比較

1)　通勤について

通勤についてみると、「治療開始前から通勤していない」（45.2%）が最も多く、次いで、「以前と同じように通勤ができる」（13.1%）となっている。

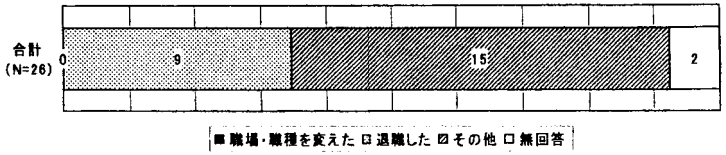
図表 6.8-6　通勤について



2)　（通勤の状況に変化がある場合）具体的な変化の内容

1)で「以前ほどではないが、通勤ができる」または「以前のようには通勤ができない、又は、通勤すべきでないと言われた」と回答した患者のうち、通勤の状況に変化がある場合の具体的な変化の内容についてみると、「その他」が 26 名中 15 名と最も多く、次いで「退職した」が 9 名となっている。

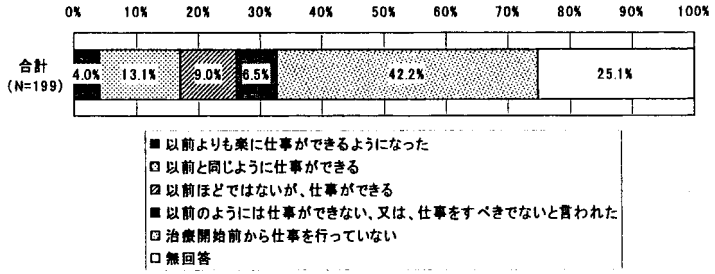
図表 6.8-7　（通勤の状況に変化がある場合）具体的な内容の変化



3)　仕事について

仕事についてみると、「治療開始前から仕事を行っていない」（42.2%）が最も多く、次いで、「以前と同じように仕事ができる」（13.1%）となっている。

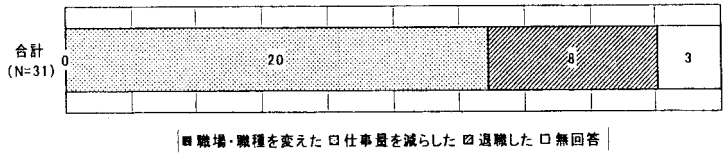
図表 6.8-8　仕事について



4)　（仕事の状況に変化がある場合）具体的な変化の内容

3)で「以前ほどではないが、仕事ができる」または「以前のようには仕事ができない、又は、仕事をすべきでないと言われた」と回答した患者のうち、仕事の状況に変化がある場合の具体的な変化の内容についてみると、「仕事量を減らした」が 31 名中 20 名と最も多くなっている。

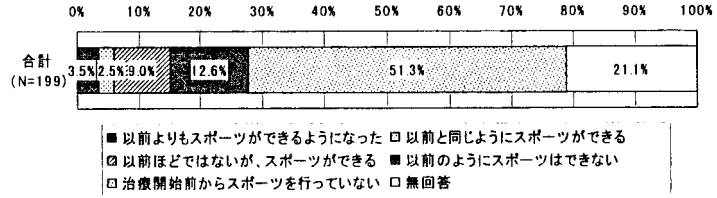
図表 6.8-9　（仕事の状況に変化がある場合）具体的な変化の内容



5)　スポーツについて

スポーツについてみると、「治療開始前からスポーツを行っていない」（51.3%）が最も多く、次いで、「以前のようにスポーツはできない」（12.6%）となっている。

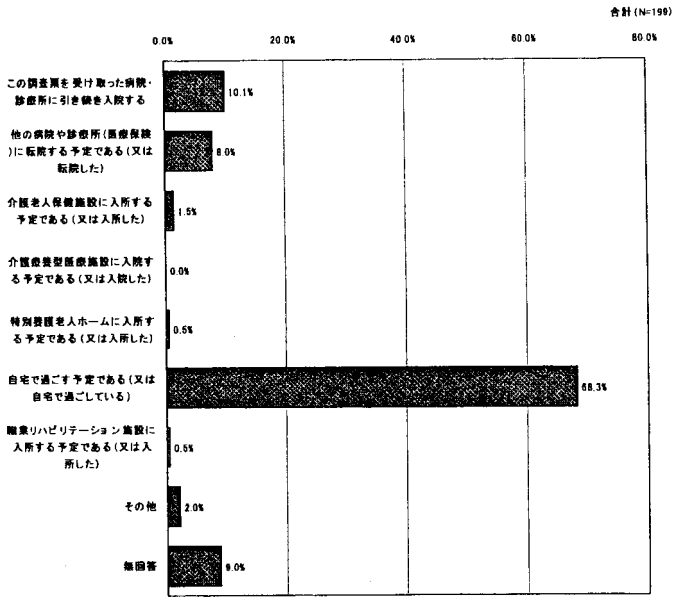
図表 6.8-10　スポーツについて



(3)　今後予定している生活場所

今後予定している生活場所（又は現在生活している場所）についてみると、「自宅で過ごす予定である(又は自宅で過ごしている)」(68.3%) が最も多く、次いで、「この調査票を受け取った病院・診療所に引き続き入院する」（10.1%）となっている。

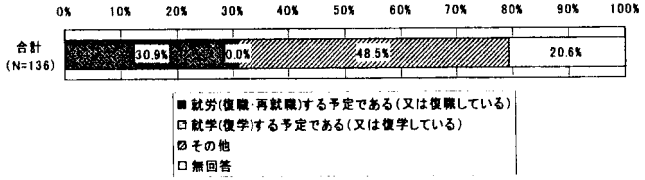
図表 6.8-11　今後予定している生活場所



1)　（自宅で過ごす場合）復職・復学の予定　（複数回答）

自宅で過ごす場合の復職・復学の予定についてみると、「その他」を別にすると「就労(復職・再就職)する予定である(又は復職している)」(30.9%) が最も多くなっている。

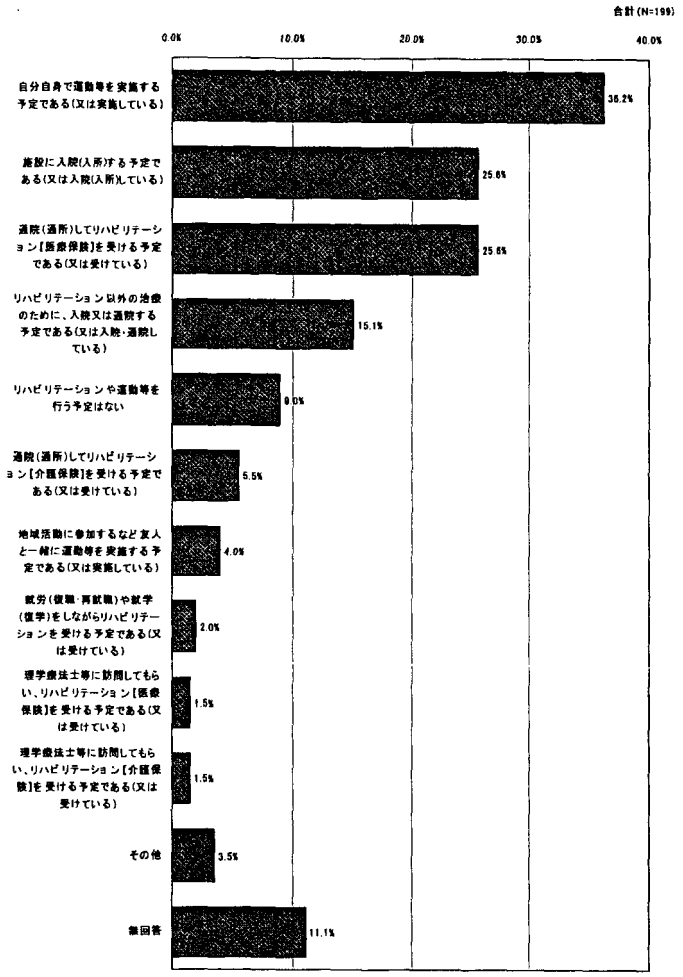
図表 6.8-12　（自宅で過ごす場合）復職・復学の予定



(4)　今後予定しているリハビリテーション等（複数回答）

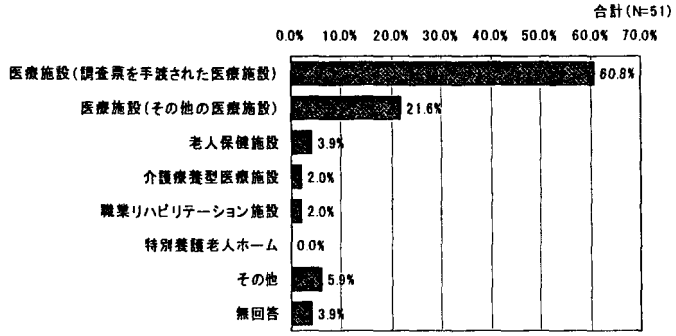
今後予定している（又は受けている）リハビリテーション等についてみると、「自分自身で運動等を実施する予定である(又は実施している)」(36.2%) が最も多く、次いで、「施設に入院（入所）する予定である（又は入院（入所）している)」(25.6%)「通院（通所）してリハビリテーション【医療保険】を受ける予定である(又は受けている)」(25.6%) となっている。

図表 6.8-13　今後予定しているリハビリテーション等

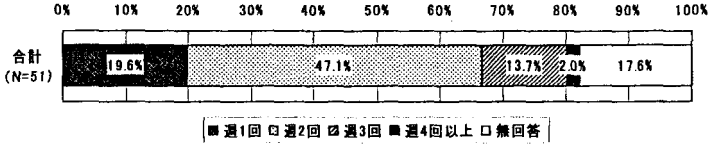


施設に入院(入所)する予定である(又は入院(入所)している)としている患者について、具体的な施設についてみると、「医療施設（調査票を手渡された医療施設)」(60.8%) が最も多く、次いで、「医療施設（その他の医療施設)」(21.6%) となっている。

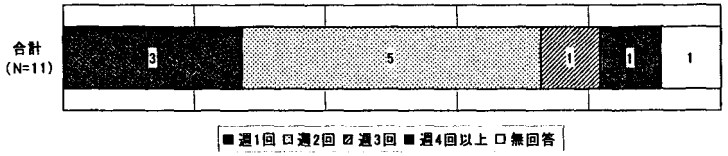
図表 6.8-14　今後予定しているリハビリテーション等（施設に入院する予定）



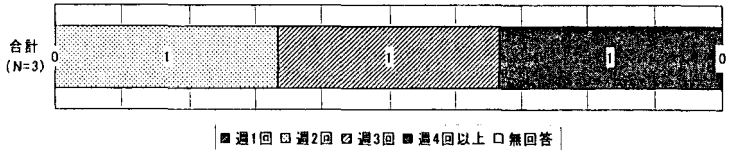
図表 6.8-15　「通院(通所)してリハビリテーション【医療保険】を受ける予定である(又は受けている)」としている患者について、その回数



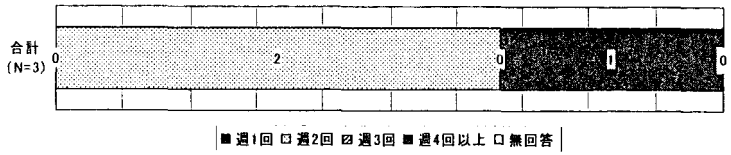
図表 6.8-16　「通院(通所)してリハビリテーション【介護保険】を受ける予定である(又は受けている)」としている患者について、その回数



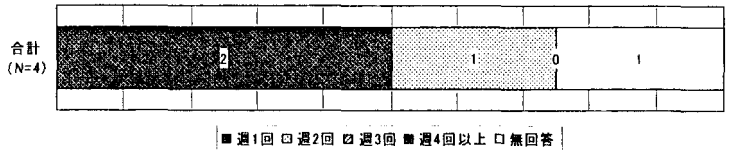
図表 6.8-17 「理学療法士等に訪問してもらいリハビリテーション【医療保険】を受ける予定である(又は受けている)」としている患者について、その回数



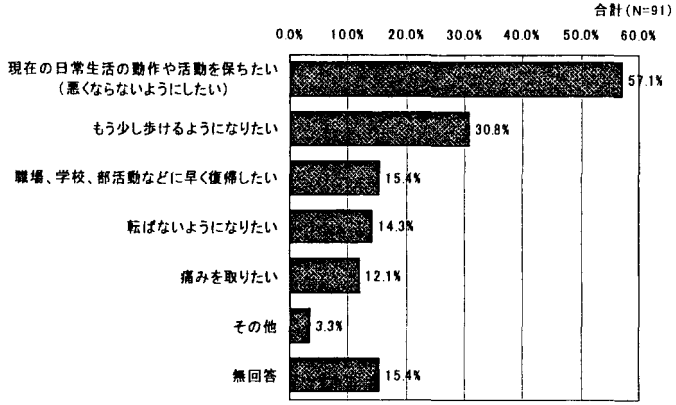
図表 6.8-18 「理学療法士等に訪問してもらいリハビリテーション【介護保険】を受ける予定である(又は受けている)」としている患者について、その回数



図表 6.8-19 「就労(復職・再就職) や就学(復学)をしながらリハビリテーションを受ける予定である(又は受けている)」としている患者について、その回数



1) (医療保険または介護保険のリハビリテーションを受ける(又は受けている)予定の場合) リハビリテーションに望むこと (複数回答)

医療保険または介護保険のリハビリテーションを受ける予定の場合のリハビリテーションに望むことについてみると、「現在の日常生活の動作や活動を保ちたい (悪くならないようにしたい)」(57.1%) が最も多く、次いで、「もう少し歩けるようになりたい」(30.8%) となっている。

図表 6.8-20 リハビリテーションに望むこと